

ヒメモチ (モチノキ科) の北海道分布

千歳市 五十嵐 博

はじめに

ヒメモチ *Ilex leucoclada* (Maxim.) Makino (図1、2) は、北海道(西南部)、本州(東北および北陸～山陰地方)に分布する高さ70cmほどの常緑低木、雌雄異株、葉は狭披針形で長さ10cmほど、厚みと光沢がある。果実は球形で赤く熟し、径1cmほど、開花は5月下旬～7月上旬である(五百川2017、梅沢2018)。



図1 ヒメモチの花 2017.5.23 厚沢部町

黒松内、カスベ岳①、カスベ岳②、今金、北檜山、八束、神威脇、春日、赤石②、設計山、江差②、富里、陣屋、桂岳、茂辺地、神明、木古内、当別、湯ノ里、渡島知内、千軒、渡島福島①の25地点である。2017年12月に確認した北海道大学総合博物館における標本調査では上記に雷電山、永豊、大平山、奥尻②、熊石、青苗、大千軒岳の7地点が追加された。



図2 ヒメモチの果実 2011.9.20 北斗市

ヒメモチはブナ型分布を代表する低木で、類似するヒメアオキとは葉縁の鋸歯が無いことで見分けられる。梅沢(2018)では、北海道(後志以南)、本州(中部以北)と分布報告があるのでブナ、ヒメアオキ同様に分布を調べてきた。その結果を報告する。

分布調査

1991年～2021年までの31年間で確認した国土地理院2.5万分の一地形図名を北から列記すると、本目、狩場山、賀老、

この結果を図3に●印で示した。五百川(2017)が分布を本州の東北および北陸～山陰地方としているとおおり、日本海側の多雪地帯がヒメモチの分布域である。図4のヒメアオキはそれよりやや北上する傾向である。図5のブナの分布域と重なるが、図3に示したよりも北側の未確認産地もあることから筆者はヒメモチ、ヒメアオキ2種の分布をブナ型ではなくトチノキ型(図6)と考えている。

(北海道野生植物研究所)

引用文献

五百川 裕. モチノキ科. 大橋広好ほか(編).
改訂新版日本の野生植物 5, pp. 180-185.

平凡社, 東京.

梅沢俊. 2018. 北海道の草花. 北海道新聞
社, 札幌.

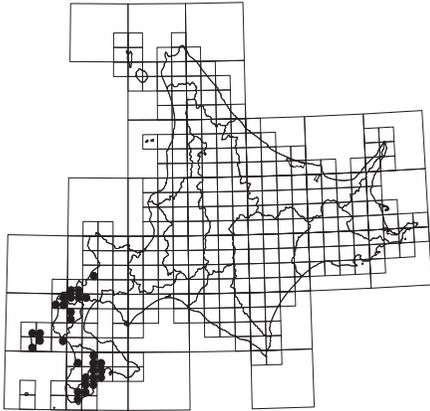


図3 ヒメモチの北海道分布 2021

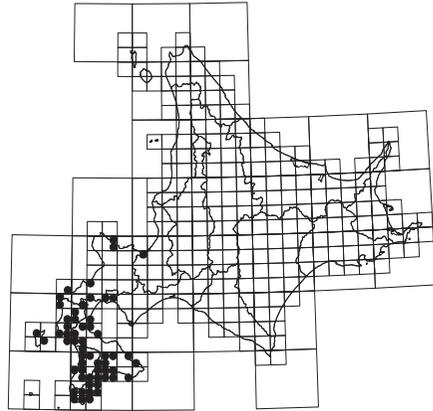


図4 ヒメアオキの北海道分布 2021

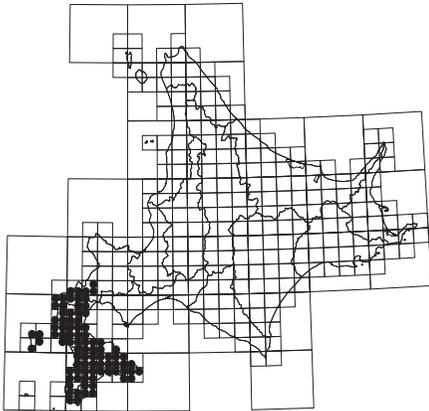


図5 ブナの北海道分布 2021

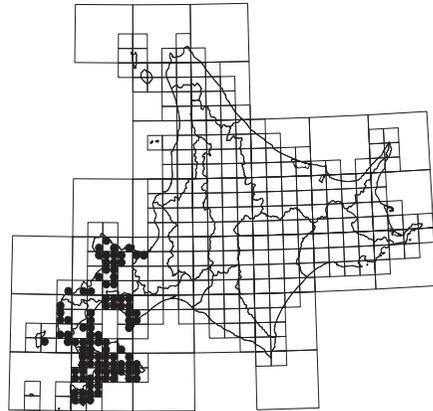


図6 トチノキの北海道分布 2021